

【R&Iグリーンボンドアセスメント】

戸田建設オフショアウインドパワーグリーンボンド：GA1 予備評価

格付投資情報センター(R&I)は上記のR&Iグリーンボンドアセスメント(予備評価)を公表しました。

【評価対象】

名称	戸田建設オフショアウインドパワーグリーンボンド
発行体	戸田建設株式会社
発行額	50億円 (予定)
R&Iグリーンボンドアセスメント	GA1 (予備)
発行日	2018年12月 (予定)
償還日	2023年12月 (予定)

【評価理由】

戸田建設株式会社(以下、戸田建設)は準大手ゼネコンの一角。医療施設、教育施設、事務所、生産設備など幅広い分野の建築工事に強みを持ち、近年は浮体式洋上風力発電所や太陽光発電所等の建設にも取り組んでいる。今般、昨年12月の発行(第3回無担保社債：戸田建設グリーンボンド)に続き本社債をグリーンボンド原則(Green Bond Principles) 2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に基づいたグリーンボンドとして発行する。

R&Iは、R&Iグリーンボンドアセスメントに定める評価方法に従い、本社債の調達資金が環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高いと判断し、GA1(予備評価)を付与した。

主な評価理由は下記の通りである。

- ・ 本グリーンボンドの資金使途は、長崎県五島市沖に計画中の最大22MWの浮体式洋上風力発電所(以下、本プロジェクト)の建設資金である。洋上風力発電事業は再生可能エネルギー発電事業であり、地球温暖化の緩和に資する事業であると考えられる。
- ・ 日本では陸上風力発電の導入可能地域は限定的である一方、海に囲まれた島国であるため、洋上風力発電の導入ポテンシャルが大きいと見込まれている。中でも、水深の深い海域でも設置可能な浮体式洋上風力発電の日本初となる本格的な事業化は、日本の再生可能エネルギー発電の導入促進に大きく貢献することが期待されており、本プロジェクトの意義は大きいといえよう。
- ・ 実施していた環境アセスメントについて追加的な対応を要することなく2018年8月に経済産業省より「環境影響評価書」の確定通知を受領し、住民への公告・縦覧を経て2018年10月に完了している。
- ・ 本プロジェクトを本グリーンボンドの資金使途として選定するプロセス、調達資金を本プロジェクトに充当するまでの資金管理方法、調達資金の充当状況や環境効果に関する開示方針はグリーンボンド原則に基づき定められている。また、戸田建設は、環境に関する全社的な体制を整え、事業活動を通じて先進的な環境保全活動に取り組んでいる。

なお、上記を総合的に勘案し、R&Iは、本社債がグリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に則った債券であると考えている。

R&Iグリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp
■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目 22 番地 テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

R&Iグリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。R&Iグリーンボンドアセスメントは、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、R&Iグリーンボンドアセスメントに際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、R&Iグリーンボンドアセスメント（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき <https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

1. 調達資金の使途 : Use of Proceeds

グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資されるためには、まず調達資金の充当先である対象事業が、環境問題の解決に資する事業である必要がある。

本件の資金使途は、下表の通り。

事業区分	事業名	充当割合
再生可能エネルギー	(仮称) 五島市沖洋上風力発電事業	100%

【対象事業の概要】

(仮称) 五島市沖洋上風力発電事業は、長崎県五島市崎山沖に設置される、最大出力22MWの浮体式洋上風力発電所である。現時点で設置する風車は、2MW×8基、5MW×1基を予定している。

戸田建設は、2010年度から2015年度にかけて、長崎県五島市杵島沖で実施された日本初となる浮体式洋上風力発電施設の実証事業に、環境省の受託グループの代表等として参加し、浮体式洋上風力発電事業に取り組んできた。実証事業では、浮体式洋上風力発電施設の設置・運用や環境影響に関する調査がなされている。なお、実証事業で設置された実証機は崎山沖に移され、2016年度から五島市と共同で日本初の実用化となる発電事業を行っている。

本プロジェクトは、環境省の実証事業で得られた環境影響等の報告を参考に環境影響評価法に基づく環境アセスメントを実施し、2018年8月に経済産業省より「環境影響評価書」の確定通知を受領後、住民への公告・縦覧を経て同年10月に完了している。今後は各種建設工事を経て2021年の運転開始を想定している。

【評価】

洋上風力発電事業は再生可能エネルギー発電事業であり、地球温暖化の緩和に資する事業であると考えられる。

日本では陸上風力発電の導入可能地域は限定的である一方、海に囲まれた島国であるため、洋上風力発電の導入ポテンシャルが大きいと見込まれている。中でも、水深の深い海域でも設置可能な浮体式洋上風力発電の日本初となる本格的な事業化は、日本の再生可能エネルギー発電の導入促進に大きく貢献することが期待されており、本プロジェクトの意義は大きいといえよう。

また、本プロジェクトでは、事業想定地域において環境省の実証事業で得られた環境影響等の報告を参考に、浮体式洋上風力発電が海洋生物、鳥類、景観等の環境に与える影響について調査や予測評価を実施し、「環境影響評価書」に基づく環境配慮措置が講じられる予定である。

以上を総合的に判断し、環境問題の解決に資する程度が特に優れていると判断した。

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス : Process for Project Evaluation and Selection

グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資されるためには、発行体がなぜ対象事業を環境問題に資する事業であると考え、どのようにして選定したのかというプロセスが、明確かつ合理的である必要がある。

【戸田建設における当該プロセスの概要】

戸田建設では、環境に関する理念や方針として「戸田建設地球環境憲章」、「環境方針」、「CSR方針」を制定している。当該理念や方針に基づき、メガソーラー発電や洋上風力発電などの再生可能エネルギー事業に取り組んでおり、これらの事業は同社のCSR活動の重点活動項目にも挙げられている。浮体式洋上風力発電については、2007年から京都大学とともに開発に取り組み、2010～2015年度には環境省の実証事業を受託し、ノウハウを蓄積してきた。同受託事業は、浮体式洋上風力発電施設を外洋域に設置・運転する日本初の取り組みである。

本プロジェクトはグリーンボンド原則に示される再生可能エネルギー発電施設であること等から、グリーンボンドの資金使途として検討が進められた。本プロジェクトを担当するエネルギー事業部が確認を行い、それを受けて本社財務部が本プロジェクトをグリーンボンドの資金使途とすることについて、取締役会の承認手続きを行っている。

本プロジェクトにおける環境影響については、環境影響評価法に基づいた手続きの中で調査・予測評価を実施し、必要な環境保全措置を施すなどの配慮がなされている。また、戸田建設は、労働災害・事故等を防止すべく、労働安全衛生マネジメントシステムの維持・推進に取り組んでいる。

【評価】

戸田建設は再生可能エネルギー事業にこれまで取り組んできており、本プロジェクトを通じて浮体式洋上風力発電の本格的な事業化を目指している。また、本プロジェクトをグリーンボンドの対象事業とするにあたっては、適切に機関決定を行っている。さらに、環境アセスメントを通じて本プロジェクトが環境に与える影響について、十分な調査・検討等が行われている。

以上より、本グリーンボンドの対象事業の選定のプロセスは、明確かつ合理的であり、優れていると評価した。

3. 調達資金の管理 : Management of Proceeds

グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資されるためには、調達資金が他の事業に使われず、確実に対象事業に充当される必要がある。

【戸田建設における調達資金の管理方法の概要】

本プロジェクトは、環境アセスメント手続きを完了しており、建設工事等を経て2021年に運転開始を想定している。グリーンボンドの調達資金の充当は、2020年度をめどに完了する見込みである。

事業規模および総事業費については機関決定済みであり、グリーンボンドの調達資金は全額本プロジェクトに充当される見込みである。なお、万一本プロジェクトが中止になる等の事態が発生した場合、ホームページ上で投資家に報告することとしている。

調達資金は充当されるまでは普通預金や譲渡性預金等で一時的に管理運用される。また調達資金の本プロジェクトへの充当は社内システムにて管理され、全調達資金が本プロジェクトに充当されるよう、四半期ごとに確認がなされる。

調達資金の管理については戸田建設本社財務部が行い、充当状況については、戸田建設財務担当役員等が確認を行う予定である。

【評価】

以上より、本グリーンボンドの調達資金管理の枠組みは定められており、本グリーンボンドの調達資金管理の枠組みは優れていると評価した。

4. レポートニング : Reporting

グリーンボンドの調達資金が、調達後環境問題の解決に資する事業に投資されたことが明らかとなるためには、どのような事業にいつ充当され、その結果どのような環境改善効果があったかを発行体がレポートニングすることが期待される。

【戸田建設におけるレポートニング方法の概要】

戸田建設は、本グリーンボンドの資金充当までの間、年に一度、充当状況をホームページにて報告する予定である。また、本プロジェクトの運転開始後は建設した風力発電機数、出力キャパシティ及びプロジェクトによるカーボンオフセット量について同様に公開する予定である。

【評価】

以上より、本グリーンボンドに関するレポートニングは、内容、頻度の面から優れていると評価した。

5. 発行体の環境活動 : Issuer's environmental contribution activities

グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度は、発行体の環境活動への取組み姿勢や取組み実績が影響すると考えられる。これは、環境活動に関心が高く実績のある発行体の方が、調達資金を環境問題の解決に資する事業に充当し、遂行する可能性が高いと考えるためである。

【戸田建設の環境活動の概要】



戸田建設の環境活動に関する取組み方針及び体制、実績は下表の通りである。

項目	概要
環境指針	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 1994年に「戸田建設地球環境憲章」を制定 ➢ 「環境方針」及び「戸田建設生物多様性行動指針」に基づき、環境に配慮した事業活動を積極的に推進
環境活動推進体制	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 環境保全推進委員会を定期的に開催し、環境に関連する方針、戦略、数値目標などを設定 ➢ 同委員長は取締役専務執行役員であり、同委員会の事務局を担う価値創造推進室長を兼務
環境目標と進捗	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 施工中のCO2排出量について、①CO2総排出量を2020年までに1990年比50%削減、2030年までに同70%、2050年までに同80%削減する目標を掲げている。また、②排出原単位は、同60%削減する目標としている。 ➢ ①については、2014年度には2020年度目標を上回る60.1%を削減、②については2014年度目標（28.4%削減）をクリアする28.9%を削減し、目標を達成している。 ➢ 建設廃棄物の最終処分率の削減（2000年度＝19.1%から、2017年度＝2.6%まで削減）や有害物質のリスク管理に取り組んでいる。
主な環境活動	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 1992年12月までに全支店でISO14001の認証を取得し、2004年には全社統合で認証を取得 ➢ ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の開発や低炭素型コンクリート「スラグリート」の開発を行っている。 ➢ 浮体式洋上風力発電をはじめ、メガソーラー発電やバイオマス発電事業などの再生可能エネルギー発電事業に取り組んでいる。 ➢ 重金属汚染土浄化システムの利用や放射能廃棄物データ管理システム「TOMIC」を開発し、建設廃棄物の削減や有害物質の管理に努めている。
環境活動の開示	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 戸田建設ウェブサイト上の環境に関するページ、また年に1度開示されるコーポレートレポートおよびCSRレポートにて環境に関する取組み内容を開示 ➢ 環境に関する主な報告内容は、戸田建設の環境体制や環境活動実績、環境関連データ等。このうちCO2排出量データについては、スコープ1、2（エネルギー起源の二酸化炭素排出量）、スコープ3（下流のリース資産の排出量）、および施工中のCO2排出原単位について、独立した第三者の検証を受け保証報告書を受領
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 2010年に環境省のエコ・ファースト企業に認定 ➢ 2017年度に国際非営利団体であるCDPよりBランクの評価を取得 ➢ 2017年8月に、戸田建設のCO2排出削減目標が、科学的根拠に基づく目標であり、パリ協定の目標値達成に貢献する旨、国際的イニシアチブであるSBTi（Science Based Targets in initiative）の認定を取得

【評価】

以上より、環境に関する全社的な体制を整え、事業を通じて先進的な環境活動に取り組んでいることから、環境活動への取組み姿勢は特に積極的かつ充実していると判断した。

【総合評価】

R&IはR&Iグリーンボンドアセスメントに則り本社債の予備評価を行った。各項目における評価は、下記の通り。各項目を5段階で評価し、 (最上位) から  (最下位) で表示している。

項目	評価	概要
調達資金の使途		対象事業である長崎県五島市の浮体式洋上風力発電所は先進的な再生可能エネルギー事業の取り組みと評価できる。対象事業は環境問題の解決に資する程度が特に優れていると考えられる。
プロジェクトの評価と選定のプロセス		選定理由や選定を行うための体制は妥当であり、対象事業の選定のプロセスは優れていると考えられる。
調達資金の管理		調達資金管理の枠組みは定められており、調達資金管理の枠組みは優れていると考えられる。
レポートニング		レポートニングは、内容、頻度の面から優れていると考えられる。
発行体の環境活動		戸田建設の環境に関する体制は整っており、十分な実績を有している。発行体の環境活動への取り組み姿勢は、特に積極的かつ充実していると考えられる。

各項目の評価を基に総合評価を行い、R&Iは評価対象のグリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高いと判断し、GA1（予備評価）を付与した。

R&Iグリーンボンドアセスメントの評価方法は以下のホームページに公開されています。
https://www.r-i.co.jp/rating/products/green_bond/assessment.html

R&IのR&Iグリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対するR&Iの意見です。R&Iグリーンボンドアセスメントでは、グリーンボンドフレームワークに関してのセカンドオピニオンを付随的に提供する場合があります。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

R&Iグリーンボンドアセスメントは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&IはR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&IがR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報は、R&Iがその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、R&Iは、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&Iは、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&Iは、資料・情報の不足や、その他の状況により、R&Iの判断でR&Iグリーンボンドアセスメントを保留したり、取り下げたりすることがあります。

R&Iは、R&IがR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報、R&IのR&Iグリーンボンドアセスメントその他の意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やR&Iグリーンボンドアセスメントの使用、あるいはR&Iグリーンボンドアセスメントの変更・保留・取り下げ等に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとします）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。R&Iグリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。

R&Iが評価対象の評価に用いる評価方法は、R&Iが独自の分析、研究等に基づいて作成したR&Iの意見の表明にすぎず、R&Iは、評価方法の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。また、R&Iは、評価方法の開示によって、いずれかの者の投資判断や財務等に関する助言を行い、又は投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、評価方法の内容、使用等に関して使用者その他の第三者に発生する損害等につき、請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、何ら責任を負いません。評価方法に関する一切の権利・利益（特許権、著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、R&Iに帰属します。R&Iの事前の書面による許諾無く、評価方法の全部又は一部を自己使用の目的を超えて使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）し、又は使用する目的で保管することは禁止されています。

グリーンボンド／グリーンボンド・プログラム 独立した外部レビューフォーム

セクション 1. 基本情報

発行体名：戸田建設株式会社

グリーンボンドの ISIN 又は 発行体のグリーンボンド発行に関するフレームワーク名（該当する場合）：

独立した外部レビュー実施者名：格付投資情報センター

本フォーム記入完了日：2018年11月13日

レビュー発表日：2018年11月13日

セクション 2. レビュー概要

レビュー範囲

必要に応じて、レビューの範囲を要約するために以下の項目を利用又は採用する。

本レビューでは、以下の要素を評価し、グリーンボンド原則（以下、GBP）との整合性を確認した：

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

独立した外部レビュー実施者の役割

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/レーティング（格付け） |
| <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）： | |

注記：複数のレビューを実施又は異なる複数のレビュー実施者が存在する場合、それぞれ別々の用紙にご記入ください。

Latest update: June 2018

レビューのエグゼクティブサマリオよび／またはレビュー全文へのリンク (該当する場合)

【R&I グリーンボンドアセスメント】

R&I は、R&I グリーンボンドアセスメントに定める評価方法に従い、本グリーンボンドの調達資金が環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高いと判断し、GA1 (予備評価) を付与した。なお、本件は予備評価であり、最終的な発行内容などを確認し、改めて評価を行う。

レビュー全文は、本リリースの本文を参照。

セクション 3. レビュー詳細

レビュー実施者には可能な限り以下の情報を提供し、レビュー範囲を説明するためにコメントセクションを利用するよう推奨する。

1. 調達資金の使途

セクションに関する全般的なコメント (該当する場合) :

(仮称) 五島市沖洋上風力発電事業は、長崎県五島市崎山沖に設置される、最大出力 22MW の浮体式洋上風力発電所である。現時点で設置する風車は、2MW×8 基、5MW×1 基を予定している。

戸田建設は、2010 年度から 2015 年度にかけて、長崎県五島市杵島沖で実施された日本初となる浮体式洋上風力発電施設の実証事業に、環境省の受託グループの代表等として参加し、浮体式洋上風力発電事業に取り組んできた。実証事業では、浮体式洋上風力発電施設の設置・運用や環境影響に関する調査がなされている。なお、実証事業で設置された実証機は崎山沖に移され、2016 年度から五島市と共同で日本初の実用化となる発電事業を行っている。

本プロジェクトは、環境省の実証事業で得られた環境影響等の報告を参考に環境影響評価法に基づく環境アセスメントを実施し、2018 年 8 月に経済産業省より「環境影響評価書」の確定通知を受領後、住民への公告・縦覧を経て同年 10 月に完了している。今後は各種建設工事を経て 2021 年の運転開始を想定している。

洋上風力発電事業は再生可能エネルギー発電事業であり、地球温暖化の緩和に資する事業であると考えられる。

日本では陸上風力発電の導入可能地域は限定的である一方、海に囲まれた島国であるため、洋上風力発電の導入ポテンシャルが大きいと見込まれている。中でも、水深の深い海域でも設置可能な浮体式洋上風力発電の日本初となる本格的な事業化は、日本の再生可能エネルギー発電の導入促進に大きく貢献することが期待されており、本プロジェクトの意義は大きいといえよう。

また、本プロジェクトでは、事業想定地域において環境省の実証事業で得られた環境影響等の報告を参考に、浮体式洋上風力発電が海洋生物、鳥類、景観等の環境に与える影響について調査や予測評価を実施し、「環境影響評価書」に基づく環境配慮措置が講じられる予定である。

以上を総合的に判断し、環境問題の解決に資する程度が特に優れていると判断した。

GBP による調達資金の用途カテゴリ：

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input type="checkbox"/> エネルギー効率 |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止および管理 | <input type="checkbox"/> 生物自然資源および土地利用に係る環境持続型管理 |
| <input type="checkbox"/> 陸上および水生生物の多様性の保全 | <input type="checkbox"/> クリーン輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源および廃水管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応 |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス | <input type="checkbox"/> グリーンビルディング（環境配慮型ビル） |
| <input type="checkbox"/> 発行時には知られていなかったが現在 GBP カテゴリへの適合が予想されている、又は、GBP でまだ規定されていないその他の適格分野 | <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）： |

GBP の事業区分に当てはまらない場合で、環境に関する分類がある場合は、ご記入ください：

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目 22 番地 テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

R&I グリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対する R&I の意見であり、事実の表明ではありません。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&I グリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第 299 条第 1 項第 28 号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。R&I グリーンボンドアセスメントは、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&I は、R&I グリーンボンドアセスメントに際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&I は、R&I グリーンボンドアセスメント（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。R&I グリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき <https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

セクションに関する全般的なコメント (該当する場合) :

戸田建設では、環境に関する理念や方針として「戸田建設地球環境憲章」、「環境方針」、「CSR方針」を制定している。当該理念や方針に基づき、メガソーラー発電や洋上風力発電などの再生可能エネルギー事業に取り組んでおり、これらの事業は同社の CSR 活動の重点活動項目にも挙げられている。浮体式洋上風力発電については、2007 年から京都大学とともに開発に取り組み、2010～2015 年度には環境省の実証事業を受託し、ノウハウを蓄積してきた。同受託事業は、浮体式洋上風力発電施設を外洋域に設置・運転する日本初の取組みである。

本プロジェクトはグリーンボンド原則に示される再生可能エネルギー発電施設であること等から、グリーンボンドの資金使途として検討が進められた。本プロジェクトを担当するエネルギー事業部が確認を行い、それを受けて本社財務部が本プロジェクトをグリーンボンドの資金使途とすることについて、取締役会の承認手続きを行っている。

本プロジェクトにおける環境影響については、環境影響評価法に基づいた手続きの中で調査・予測評価を実施し、必要な環境保全措置を施すなどの配慮がなされている。また、戸田建設は、労働災害・事故等を防止すべく、労働安全衛生マネジメントシステムの維持・推進に取り組んでいる。

戸田建設は再生可能エネルギー事業にこれまで取り組んできており、本プロジェクトを通じて浮体式洋上風力発電の本格的な事業化を目指している。また、本プロジェクトをグリーンボンドの対象事業とするにあたっては、適切に機関決定を行っている。さらに、環境アセスメントを通じて本プロジェクトが環境に与える影響について、十分な調査・検討等が行われている。

以上より、本グリーンボンドの対象事業の選定のプロセスは、明確かつ合理的であり、優れていると評価した。

評価と選定

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 十分な発行体の環境面での持続可能性に係る目標がある | <input checked="" type="checkbox"/> 文書化されたプロセスにより、定義された事業区分にプロジェクトが適合すると判断される |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの適格プロジェクトを定義した透明性の高いクライテリアがある | <input checked="" type="checkbox"/> 文書化されたプロセスにより、プロジェクトに関連する潜在的な ESG リスクは特定・管理される |
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定のためのクライテリアの概要が、公表される | <input type="checkbox"/> その他 (ご記入ください) : |

責任およびアカウンタビリティに関する情報

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 外部機関の助言または検証を受けた評価/選定基準である | <input type="checkbox"/> 組織内で定められた評価基準である |
| <input type="checkbox"/> その他 (ご記入ください) : | |

3. 調達資金の管理

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

本プロジェクトは、環境アセスメント手続きを完了しており、建設工事等を経て2021年に運転開始を想定している。グリーンボンドの調達資金の充当は、2020年度をめどに完了する見込みである。

事業規模および総事業費については機関決定済みであり、グリーンボンドの調達資金は全額本プロジェクトに充当される見込みである。なお、万一本プロジェクトが中止になる等の事態が発生した場合、ホームページ上で投資家に報告することとしている。

調達資金は充当されるまでは普通預金や譲渡性預金等で一時的に管理運用される。また調達資金の本プロジェクトへの充当は社内システムにて管理され、全調達資金が本プロジェクトに充当されるよう、四半期ごとに確認がなされる。

調達資金の管理については戸田建設本社財務部が行い、充当状況については、戸田建設財務担当役員等が確認を行う予定である。

以上より、本グリーンボンドの調達資金管理の枠組みは定められており、本グリーンボンドの調達資金管理の枠組みは優れていると評価した。

調達資金の追跡管理：

- グリーンボンドの調達資金は、発行体により適切な方法で分別又は追跡管理される
- 未充当資金について、想定される一時的な運用方法の種類が開示される
- その他（明記ください）：

追加的な開示：

- 将来の投資にのみ充当
- 個別単位の支出に充当
- 未充当資金のポートフォリオを開示する
- 既存および将来の投資に充当
- ポートフォリオ単位の支出に充当
- その他（ご記入ください）：

4. レポーティング

セクションに関する全般的なコメント (該当する場合) :

戸田建設は、本グリーンボンドの資金充当までの間、年に一度、充当状況をホームページにて報告する予定である。また、本プロジェクトの運転開始後は建設した風力発電機数、出力キャパシティおよびプロジェクトによるカーボンオフセット量について同様に公開する予定である。

以上より、本グリーンボンドに関するレポーティングは、内容、頻度の面から優れていると評価した。

調達資金の用途に関するレポーティング :

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input type="checkbox"/> プロジェクトポートフォリオ単位 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別債券単位 | <input type="checkbox"/> その他 (明記ください) : |

レポーティングされる情報 :

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 充当した資金の額 | <input type="checkbox"/> 投資総額に占めるグリーンボンドによる調達額の割合 |
| <input type="checkbox"/> その他 (明記ください) : | |

頻度 :

- | | |
|---|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年次 | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> その他 (明記ください) : | |

環境改善効果に関するレポーティング :

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input type="checkbox"/> プロジェクトポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 個別債券単位 | <input type="checkbox"/> その他 (明記ください) : |

頻度 :

- | | |
|---|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年次 | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> その他 (明記ください) : | |

レポーティングされる情報 (計画又は実績) :

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 温室効果ガス排出量/削減量 | <input type="checkbox"/> エネルギー削減量 |
| <input type="checkbox"/> 水使用量の減少 | <input type="checkbox"/> その他 ESG 指標 (明記ください) : |

開示方法

- 財務報告書に掲載
- 臨時に発行される文書に掲載
- レポーティングは外部レビュー済（該当する場合は、レポートのどの部分が外部レビューの対象であるか明記してください）：
- サステナビリティ報告書に掲載
- その他（明記ください）：ウェブサイト

該当する場合は、「有益なリンク」のセクションに、報告書の名称、発行日を明記してください。

有益なリンク（例えば、レビュー実施者の評価方法や実績、発行体の文書等。）

R&I グリーンボンドアセスメント評価方法 https://www.r-i.co.jp/rating/products/green_bond/assessment.html
--

該当する場合は、利用可能なその他外部レビューをご記入ください
実施されるレビューの種類：

- セカンドオピニオン
- 検証
- その他（ご記入ください）：
- 認証
- スコアリング/レーティング（格付け）

レビュー実施者：

発表日：

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp
■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目 22 番地 テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

R&I グリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対する R&I の意見であり、事実の表明ではありません。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&I グリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第 299 条第 1 項第 28 号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。R&I グリーンボンドアセスメントは、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&I は、R&I グリーンボンドアセスメントに際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&I は、R&I グリーンボンドアセスメント（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。R&I グリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき <https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

GBP で定義された独立した外部レビュー機関の役割について

- (i) セカンドオピニオン：発行体の支配下でない環境面の専門性を有する機関がセカンドオピニオンを提供する。オピニオンの提供者は発行体のグリーンボンド・フレームワーク構築のためのアドバイザーから独立しているべきである。そうでなければ情報隔壁を設けるなど、セカンドオピニオンの独立性を確保するための措置をとることになる。オピニオンは通常は GBP への適合性評価を基本とする。特に環境面での持続可能性に関する包括的な目標、戦略、方針、プロセスの評価と、調達資金を充当するプロジェクトの種類に応じた環境面の特徴に対する評価を含むことができる。
- (ii) 検証：発行体は、事業プロセスや環境基準などに関連づけて設定する基準に対して独立した検証を受けることができる。検証は、内部基準や外部基準あるいは発行体が作成した要求との適合性に焦点を当てるものになる。また原資産の環境面での持続可能性に係る特徴についての評価を検証と称し、外部クライテリアを参照することがある。さらにグリーンボンドで調達される資金の内部追跡管理方法とその資金の充当状況、環境面での影響、GBP のレポートリングとの適合性に関する保証や証明も検証と呼ぶことがある。
- (iii) 認証：発行体は、グリーンボンドやそれに関連するグリーンボンド・フレームワーク、または調達資金の用途について、一般に認知されているグリーン基準やグリーンラベルへの適合性に係る認証を受けることができる。グリーン基準やグリーンラベルは具体的なクライテリアを定義したもので、通常は認証クライテリアとの適合性を、検証などの手法を用いて、資格認定された第三者機関が確認する。
- (iv) スコアリング/レーティング（格付け）：発行体は、グリーンボンド、それに関連するグリーンボンド・フレームワーク、調達資金の用途などの特徴について、専門的な調査機関や格付機関の資格を有する第三者機関から、それぞれの機関が確立した評価手法に基づく査定や評価を受けることができる。評価結果には、環境面のパフォーマンスデータ、GBP に関連するプロセス、2°C 目標のようなベンチマークなどに焦点を当てたものが含まれることがある。このようなスコアリングや格付は、信用格付（たとえその中に重要な環境面のリスクが反映されているとしても）とはまったく異なったものである。